

看護実践力到達度評価(1期生n=75、2期生n=66)

青:達成度8割未満(濃青:7割未満)

緑:SD1.0以上

群	能力	番号	項目	卒業時到達度	1期生		2期生	
					平均値	SD	平均値	SD
I ヒューマンケアの基本に関する実践能力	1)看護の対象となる人々の尊厳と権利を擁護する能力	1	(1)身体的・心理的・社会的な特徴を理解できる。→説明できる。	4	3.5	0.50	3.7	0.47
		2	(2)ライフサイクルと発達課題について理解できる(説明できる)。→説明できる。	4	3.4	0.57	3.5	0.53
		3	(3)健康レベルの連続性と生活習慣の関連について説明できる。	4	3.3	0.60	3.5	0.56
		4	(4)発達段階・文化・地域の背景を考えて健康について説明できる。	4	3.3	0.57	3.4	0.56
		5	(5)価値観や意思を尊重した行動ができる。	4	3.8	0.43	3.8	0.41
		6	(6)守秘義務を理解し、意思決定を尊重した態度をとることができる。	4	3.8	0.40	3.9	0.35
	2)実施する看護について説明し同意を得る能力	7	(1)理解力・意向・意志に合わせた説明をすることができる。	4	3.6	0.52	3.6	0.57
		8	(2)実施にあたり、同意・納得・意志決定等を支援できる。	4	3.6	0.54	3.8	0.43
	3)援助的関係を形成する能力	9	(1)自己の関わりの傾向や課題を把握できる。	4	3.6	0.49	3.7	0.44
		10	(2)自己の関わりに対する、言語的・非言語的反応を捉えることができる。	4	3.4	0.60	3.6	0.52
		11	(3)励ましの心をもち、共感的・支持的な態度で関わる中で、生きる力を引き出す援助的関係を築くことができる。	4	3.5	0.55	3.7	0.50
		12	(4)対象集団の健康を導くために、当事者たちとパートナーシップを形成することができる。	4	3.3	0.69	3.5	0.59
II 根拠に基づき看護を計画的に実践する能力	4)根拠に基づいた看護を提供する能力	13	(1)看護現象を文献や研究成果に基づいて、その重要性を理解し、活用できる。	4	3.3	0.55	3.4	0.60
		14	(2)看護実践における活用内容を理論や先行研究にあてはめて、新たな看護に活用できる。	4→3	2.9	0.66	3.2	0.65
		15	(3)疫学・保健統計の視点で、情報を探索し、活用できる。→活用の必要性を説明できる。	4	2.8	0.81	3.1	0.66
	5)計画的に看護を実践する能力	16	(1)理論に基づき、看護の対象となる人々の情報を把握し、全人的視点でアセスメントができる。	4	3.3	0.54	3.5	0.56
		17	(2)患者の特性や情報への深い理解と洞察力に基づく智慧を発揮し、個別的な看護計画を立案できる。	4	3.3	0.56	3.5	0.50
		18	(3)対象者の状況に合わせた、危険性を考慮した安全な看護を、指導の下に実施できる。	4	3.5	0.55	3.6	0.57
		19	(4)実施したケアを、患者の反応と目標達成の観点から評価できる。	4	3.4	0.57	3.6	0.54
		20	(5)法的意義を踏まえて、適切に記録できる。	4	3.4	0.64	3.5	0.64
	6)健康レベルを成長発達に応じて査定(Assessment)する能力	21	(1)看護に必要な人体の構造と機能、疾病、病態、治療について説明できる。	4	3.1	0.64	3.4	0.60
		22	(2)疾病がもたらす機能障害について説明できる。	4	3.1	0.66	3.4	0.54
		23	(3)正常な生体反応と疾病をふまえたフィジカルアセスメントの方法について説明できる。	4	3.0	0.60	3.4	0.56
		24	(4)身体的な健康状態を査定できる。	4	3.0	0.64	3.4	0.61
		25	(5)情緒の発達、言語や認知、感情、性格、気質、精神状態を査定できる。	4	3.1	0.72	3.4	0.68
		26	(6)形態的な成長と機能的な発達に応じて、指導の下で身体的心理的なアセスメントができる。	4	3.3	0.56	3.5	0.56
	7)個人と家族の生活を査定(Assessment)する能力	27	(1)発達段階に応じた生活背景、生活状態、生活リズム等と健康状態との関連を査定できる。	4	3.3	0.57	3.6	0.55
		28	(2)家族が遭遇する様々な状況(付き添い、家族員への影響、経済状況、家族の健康状態)を捉えて、支援の必要性を査定できる。	4	3.2	0.61	3.5	0.53
		29	(3)個人の健康障害が家族生活に及ぼす影響を捉えて、支援の必要性を査定できる。→説明できる。	4	2.7	0.60	3.6	0.56
	8)地域の特性と健康問題を査定(Assessment)する能力	30	(1)地域の特性(地域の生活・文化・環境・社会経済構造等)、地域の健康指標、保健医療制度をふまえて、地域ケアニーズを捉える方法を説明できる。	4	3.0	0.70	3.4	0.56
	9)看護援助技術を適切に実施する能力	31	(1)発達段階に応じて自立や安全・安楽を考慮した日常生活援助技術を、指導のもとで実施できる。	4	3.4	0.59	3.6	0.53
		32	(2)日常生活行動の維持・促進へ向けて、前向きに生きるための力を引き出す技術を理解し、指導のもとで実施できる。	4	3.4	0.57	3.6	0.55
		33	(3)生活環境の調整へ向けた、社会制度の活用や多職種との連携・調整を理解し、指導のもとで実施できる。	4	3.2	0.63	3.5	0.53
	10)健康の保持増進と疾病を予防する能力	34	(1)ヘルスプロモーションやプライマリーヘルスケアの考え方に基づいた、第一次予防、第二次予防、第三次予防の説明ができる。	4	3.2	0.65	3.4	0.66
		35	(2)健康で快適・安楽な妊娠・出産・育児のための援助方法について説明できる。	4	3.1	0.61	3.5	0.59
		36	(3)母親役割や父親役割を獲得するために、必要な看護役割について説明できる。	4	3.1	0.69	3.5	0.61
		37	(4)新生児期、乳幼児期、学童期、思春期における発達課題と特徴をふまえ、健康の保持増進及び疾病予防のための看護援助方法について説明できる。	4	3.1	0.55	3.4	0.63
		38	(5)成人期の発達課題の特徴と生活及び健康課題について理解し、健康の保持増進及び疾病予防のために必要な生涯学習に対する看護援助方法について説明できる。	4	3.1	0.51	3.5	0.56
		39	(6)人生経験によって培われた成熟した自己を含めた高齢者の統合能力を理解し、社会サービスをふまえた看護援助方法について説明できる。	4	3.1	0.58	3.4	0.61

群	能力	番号	項目	卒業時 到達度	1期生		2期生	
					平均 値	SD	平均 値	SD
Ⅲ 特定の 健康課題 に対応する 実践能力		40	(7)地域における集団の健康課題に応じた健康の保持増進及び疾病予防のために必要な看護援助方法について説明できる。	4	3.2	0.55	3.4	0.60
		41	(8)地域の健康課題解決へ向けた国や自治体の組織的取り組みを説明できる。	4	3.0	0.69	3.3	0.62
		42	(9)地域保健活動を実施する際に必要な態度・マナーを身に付けた上で、個人・家族・地域の特性に即した看護援助方法について説明できる。	4	3.2	0.59	3.6	0.53
	11)急激な健康破綻と回復過程にある人々を援助する能力	43	(1)急性状態にある患者の疾病や病態・治療・回復過程について、発達課題、基本的ニーズ、生活習慣、自己概念をふまえて査定できる。	4	3.1	0.54	3.4	0.60
		44	(2)患者と家族の気持ちを引き出し、回復過程における全人的苦痛を緩和する看護を實踐できる。	4	3.3	0.62	3.4	0.61
		45	(3)心身の回復過程に応じて、日常生活活動、代替機能の獲得や、セルフコントロールを促すリハビリテーション看護を實踐できる。	4	3.3	0.63	3.4	0.60
		46	(4)放射線化学療法に伴う有害事象を緩和しながら、生命力を引き出す看護援助方法を實踐できる。→説明できる。	4→3	2.4	0.87	2.8	1.06
		47	(5)救急外来における医療の特徴と看護師の役割について説明できる。	4	3.1	0.61	3.3	0.64
	12)慢性疾患及び慢性的な健康課題を有する人々を援助する能力	48	(1)慢性疾患を抱える患者・家族の生活の特徴を説明できる。	4	3.3	0.63	3.6	0.50
		49	(2)慢性的な健康課題を抱える患者・家族について、疾病とその治療法及び障害、自己管理、症状マネジメントについて、指導の下で査定できる。	4	3.2	0.57	3.5	0.59
		50	(3)疾病や障害とともに生きるために、生活の再構築やセルフケアを促す看護援助を指導の下で実施できる。	4	3.3	0.59	3.5	0.59
		51	(4)疾病管理の移行に伴う退院指導の継続看護を指導の下で実施できる。	4	3.2	0.64	3.4	0.66
		52	(5)患者・家族の知見を広げ、ソーシャルサポートを指導の下で提案できる。	4	3.0	0.68	3.1	0.85
	13)終末期にある人々を援助する能力	53	(1)終末期にある患者の症状緩和、疼痛コントロール、緩和ケアにかかわる看護援助方法について説明できる。	4→3	2.7	0.92	3.0	0.87
		54	(2)終末期にある患者の希望や意思を支え、その人の価値観・生き方を尊重した看護を指導の下で実施できる。→説明できる。	4→3	2.7	0.99	3.0	0.96
		55	(3)看取りをする家族の体験について理解し、家族の個別性を重視した看護援助方法について説明できる。	4→3	2.6	0.94	2.8	1.08
		56	(4)病院や施設、在宅での看取りのための支援体制づくりについて説明できる。	4→3	2.6	0.87	2.9	0.97
	Ⅳ ケア環境と チーム体制 整備に関する 実践能力	14)保健医療福祉における看護活動と看護ケアの質を改善する能力	57	(1)保健医療福祉における制度や法律をふまえ、看護専門職としての機能と役割について説明できる。	4	3.0	0.63	3.3
58			(2)看護実践をよりよいものに変革するための看護管理の機能や役割について説明できる。	4	3.1	0.68	3.4	0.70
15)地域ケアの構築と看護機能の充実を図る能力		59	(1)地域ケアにおける支援システム及び支援方法について理解できる。→説明できる。	4	3.2	0.61	3.4	0.61
		60	(2)被災者及び被災集団への災害看護活動の在り方について理解できる。→説明できる。	4	3.1	0.66	3.3	0.66
16)安全なケア環境を提供する能力		61	(1)地域や医療機関における医療安全対策への取り組みと看護の活動・役割について説明できる。	4	3.2	0.55	3.5	0.59
		62	(2)感染予防のための標準予防策(Standard precaution)について理解し、実施することができる。	4	3.5	0.58	3.7	0.48
		63	(3)医療事故の予防と発生時対応について説明できる。	4	3.2	0.63	3.6	0.56
17)保健医療福祉における協働と連携をする能力		64	(1)保健医療福祉チームにおける協働・連携及び看護の役割について説明できる。	4	3.2	0.58	3.5	0.59
		65	(2)継続看護、退院支援、退院調整など、地域の関連機関と協働しながら、指導の下で看護を實施できる。	4	3.2	0.68	3.5	0.64
		66	(3)病院、保健所、市町村保健センター、地域包括支援センター、訪問看護ステーション、学校などとの連携の必要性について説明できる。	4	3.3	0.62	3.6	0.56
18)社会の動向を踏まえて看護を創造するための基礎となる能力		67	(1)社会と疾病構造の変化をもとに、看護の求められる役割について説明できる。	4	3.3	0.67	3.4	0.58
		68	(2)世界の看護の発展を理解し、今後の看護の方向性について考察することができる。	4	3.0	0.77	3.3	0.66
	69	(3)世界が直面する保健医療の課題と看護の役割について説明することができる。	4→3	2.8	0.80	3.1	0.64	
	70	(4)国・地域・文化・価値観および健康レベルの多様性に依じた看護の重要性を説明できる。	4	3.0	0.81	3.3	0.59	
Ⅴ 本能力 研鑽し 専門職 者とし ての基 礎	19)生涯にわたり継続して専門的能力を向上させる能力	71	(1)主体的に自己の看護を振り返り、自己の課題を見出すことができる。	4	3.6	0.49	3.6	0.48
		72	(2)生命の尊厳性を探究し、確固たる生死観形成の基礎を培う。	4	3.4	0.55	3.6	0.55
		73	(3)専門職としての成長に必要な批判的分析力、論理的思考力を活用しながら、自らの看護観を形成することができる。	4	3.3	0.58	3.5	0.50
	20)看護専門職としての価値と専門性を発展させる能力	74	(1)看護の専門性を高めるために、自己及び他者の価値や可能性を見出す姿勢を持つことができる。	4	3.6	0.50	3.8	0.43